

会 議 録

会議の名称		第 2 回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時		平成 27 年 7 月 16 日（木） 開会 9：30 閉会 12：00
開催場所		つくば市役所全員協議会室
事務局（担当課）		市長公室ひと・まち連携課
出席者	委員	・関彰商事株式会社 関 正樹 ・一般社団法人つくば観光コンベンション協会 大山 寛 ・つくば市工業団地企業連絡協議会 伊東 正俊 ・つくば市商工会 桜井 姚 ・つくば市谷田部農業協同組合 櫻井 恵子 ・株式会社ライトオン 三浦 憲之 ・株式会社エデュケーションデザインラボ 平塚 知真子 ・筑波学院大学 大島 慎子 ・国立大学法人筑波技術大学 生田目 美紀 ・つくば市中学校・高等学校長協議会 井坂 博子 ・つくば市 P T A 連絡協議会 米徳 康博 ・つくば市福祉団体等連絡協議会 後藤 真紀 ・つくば市ボランティア連絡協議会 柘植 法子 ・特定非営利活動法人ままとーん 中井 聖 ・茨城県企画部つくば地域振興課 潮田 勝利 ・つくばイノベーションアリーナ/テクノロジー-拠点 住川 雅晴 ・筑波研究学園都市交流協議会 吉田 靖 ・一般財団法人つくば国際交流協会 小玉 喜三郎 ・公益財団法人つくば文化振興財団 飯野 哲雄 ・株式会社常陽銀行 櫻井 裕之 ・株式会社筑波銀行 沼田 数人 ・茨城県社会保険労務士会 森田 信雄 ・つくば市シルバー人材センター 福田 征男 ・日本労働組合総連合会茨城県連合会 カスミグループ労働組合連合会 奥谷 崇 ・株式会社茨城新聞社 関 富美也 ・一般財団法人研究学園都市コミュニケーション・サービス 小山 幹治 ・常陽新聞株式会社 糊澤 悟 ・つくばコミュニティ放送株式会社 岩崎 幸教 ・日本放送協会水戸放送局 加茂 明 ・筑波大学全学学類・専門学群代表者会議 長城 沙樹 ・筑波地区区会連合会 鈴木 忠雄 ・豊里地区区会連合会 坂本 義治 ・谷田部地区区会連合会 木村 眞一 ・桜地区区会連合会 一色 喜美子 ・茎崎地区区会連合会 小原 正彦 ・つくば市議会 塩田 尚 計 36 名

様式第 1 号

	その他	オブザーバー つくば市副市長 岡田 久司		
	事務局	稲葉市長公室長 , 高田市長公室次長 , 長ひと・まち連携課長 , 以下 , 5 名		
公開・非公開の別		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	2 名
会議次第	【全体会議】 1 開会 2 議事 (1) 第 1 回会議 (6 月 5 日 (金)) の指摘事項と対応方針について (2) 人口ビジョンのとりまとめ状況について (3) 若手職員プロジェクトチームの提案について (4) 市民意識調査・市民懇談会の実施について 【部会】 (5) 総合戦略のとりまとめ状況について 3 閉会			

【全体会議】 1 開会 ○市長公室長 皆さん、おはようございます。定刻になりましたので、第 2 回つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開会いたします。 初めに、委員の変更がございますので、新しく有識者会議委員となられるお二人の方について御紹介をさせていただきます。 7 月付の期間内の人事異動により委員を交代されております。 初めに、地方行政機関及び公共的団体の職員の区分でございます。 茨城県企画部つくば地域振興課課長、潮田勝利様です。 続きまして、金融機関として、株式会社常陽銀行研究学園都市支店長、櫻井裕之様です。 お二人の変更がございました。委嘱状につきましては、時間の都合上、既にお手元に配付させていただいておりますので、よろしくお願いいたします。 本日は、総勢 37 名の皆様方に御参加をいただいております。引き続きよろしくお願いいたします。 続きまして、議事に入る前に、配付資料の確認をさせていただきます。 では、事務局の方からよろしくお願いいたします。 ○事務局 (配布資料の確認) 2 議事 (1) 第 1 回会議 (6 月 5 日 (金)) の指摘事項と対応方針について ○市長公室長 それでは、議事に入ります。 ここからは、つくば市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱第 5 条第	
--	--

様式第 1 号

3 項の規定に基づき、小玉座長に議長をお願いいたします。

○座長 皆様、おはようございます。

あいにくのお天気のところですが、朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。これから 2 時間半、帰りの天気も心配なようですけれども、いろいろと御議論いただければと思います。本日は岡田副市長にも御出席いただいていますので、途中でいろいろ、また御意見等をいただければと思います。

それでは、早速ですが、議事次第に従いまして進めさせていただきたいと思います。

まず、本日の議題の 1 ですが、第 1 回会議（6 月 5 日）の指摘された事項あるいは対応方針について整理していただいておりますので、これについて事務局の方から資料に基づいて説明をお願いいたします。よろしくお願いします。

○事務局

《資料 1 の概要の説明》

○座長 ありがとうございます。

冒頭に説明がありましたように、本日の議事の進行ですが、議事次第の 1 から 4 までは全体として、できましたら 1 時間ぐらいで、10 時半ぐらいまでをめでに御議論いただきましてから 2 つの部会に分かれまして、十分そちらで時間をとって御議論いただきたいと考えております。

今説明がありました前回の指摘事項、あるいはその後の御意見等、大変多数の皆様方から御意見をいただいております、それらの幾つかが今回の会議の進行等にも反映されていると思います。また、先日、今日お手元に資料がありませんけれども、大変詳しくまとめていただきました会議録を皆様お読みになっていると思いますので、合わせまして、特に追加する等の御意見がございませんでしょうか。

詳しくはまたこの後の部会の方で御議論いただきたいと思いますますが、特に質問とか、あるいは趣旨とか、わかりにくいとか何か御質問等ございますでしょうか。

○委員 シルバーセンターの福田と申します。よろしくお願いします。

分科会に分かれると思うんですけれども、それ以前に、ちょっと入れた方がいいんじゃないかと思うところがあります。

それは、資料 5 - 2 の中の 2 番目、東京圏から人を呼ぶとともに茨城県南の人口流出ということなんですけれども、その次に（ア）から（エ）まであります。この前に、ベッドタウンとしてのつくば、これを大々的に売り出す必要があるかと思うんです。

これは社会増、自然増、両方のことが期待できるわけですね。そのために、まず鉄道網の整備というのが必要だろうと思うんです。T X は今秋葉原になっ

ていますけれども東京まで乗り入れるといったこととか，それと，もともとある常磐線も今上野ですよ，これを東京とか品川あたりまで乗り入れるとか。

それと，常磐線に関しては雨とか雪に非常に弱い。私も実はつくばから新橋に通っていたんですけども，当時はまだＴＸができていなかったですから常磐線だったんですね。そのときにしょっちゅう止まって，遅れた経験がございます。その辺の整備が必要だろうと思います。

そういった意味で，ＪＲと首都圏新都市交通との連携が必要だろうと思いますけれども，ベッドタウンとしてのつくば，これを全面的に打ち出したらいかがでしょうか。近隣の埼玉にしても千葉にしてもベッドタウンとして発展した街ですよ。そういった意味でこの辺をやるべきではないかなと思います。

○座長 ありがとうございます。これは多分，後ほどの議題の中で，この資料５－１，５－２で十分かどうかということの議論をいたしますので，どちらかに必ず入るという御提案だと思いますので，そこで議論いただければと思います。ありがとうございます。

ほかにも何か，この際，全体としての御意見等ございますでしょうか。まだ，もちろん，お気づきの点はこれから次の部会等も含めましてさらに深めていただければと思います。

では，とりあえずここで資料としては御説明いただいたということで，この議題１については終了したいと思います。ありがとうございます。

（２）人口ビジョンの取りまとめ状況について

○座長 それでは，本日の部会に分かれる前に全体のベースの認識として分析しておくべきということで，「人口ビジョンの取りまとめ状況について」という議題２に進みたいと思います。

事務局から御説明をお願いします。

○事務局

《資料２の概要，資料３－１，３－２を省略する旨説明》

○座長 ありがとうございます。

大変申しわけないですが，私，議事の進行で，先ほど議題１のところで皆さんに確認をしていただかなければならなかったんですが，先日配付されておりました会議録につきまして，特段修正等がございませんでしたらここで確定をして，個人名は略記した形でホームページ等で公開されるということで御了承いただきたいんですが，よろしいでしょうか。

ありがとうございます。では，御了解いただいたということにいたします。

それでは，ただいま，本日の議題の２のところで人口ビジョンの取りまとめ，大変詳しく精力的に分析していただいたと思います。これからの部会の両方にとって大変貴重なポイントが指摘されていると思いますが，細かいところは別

としてまして、特にこういう分析の仕方が必要じゃないか、あるいはもっと別の分析が必要じゃないか等々を含めまして、御意見、御質問等ございますでしょうか。

○委員 かなり深掘りした人口分析だと思います。茨城県との比較も出ていまして、ほかの自治体については、どちらかといえば茨城県と同じような人口の増減の動きがあるのかなと。つくば市というのはやっぱり特異だと思います。ほかの自治体については、人口減を、自然減、社会減を食い止めるために大学を誘致しようとしてなかなかできないとかいろんな状況があります。それに対してつくば市の場合は、筑波大学を初め、筑波学院大学、いろいろな大学があって、ここはアドバンテージだとは思うんですね。ですから、もっともってこの人口分析というのはやっていただきたいと思います。

一点、質問なんですけど、7 ページの、つくば市の場合は茨城県とはちょっと違った人口の推移を示していることはもちろんなんですけれども、つくば市の場合に転入と転出が同じような動きを見せているという分析がございました。これはなぜですか。なぜということについて、もし分析ができていれば教えていただきたいと思います。

○事務局 これはつくば市独特の傾向なんですけど、まず学生がいるので、3 月には卒業する人が 1 学年に 2,000 人から 3,000 人ぐらいいて、その方が転出して、その後 4 月に新しく入学する方がいるというのが一つ。

それから、公務員住宅がございます。公務員住宅も、3 月に定期異動で大幅に転出して 4 月にまた入ってくる。同じように、企業でも 4 月の異動があって、研究所ですとか民間企業の方も同じように 3 月に転出して 4 月の頭に入ってくる。つくば市の特性として、大学、研究機関、企業の定期異動でこういった傾向が見られる。

さらに、年齢的に見ますと、生産年齢ですね、特に学生、60 歳までの勤めている方の移動がかなり多いという傾向になっております。

○委員 ほかの自治体の場合は、18 歳までしっかりと勉強させた学生たちが 19 歳から東京に流出するのをいかに防ぐかということに重点を置いているんですけども、今のは、大学とか研究機関とかの転出と転入があるというお話、だからこの転出と転入が同じような傾向を示しているということなんですけど、それでは、つくば市の場合は 18 歳まで育てた若者が 19 歳以降東京に出ていくという現象は起きていないという分析でよろしいんですか。

○事務局 ゼロではないです。やはり、つくばに住んでいて東京の大学に通う方もいらっしゃいます。ただ、それ以上に、つくばには大学が 3 つございまして入ってくる方が多い。相殺されてしまう傾向があるんです。ですので、決して、つくばで 18 歳まで育った子供が 19 歳になって東京に行かないかというわ

けではございませんので、その辺のところで、原点に返って、つくばから出ないように。

例えば、13 ページのグラフを見ていただくと分かるんですが、ここでは 15 歳から 19 歳の年齢の転入が多くなっています。これは大学での影響が大きいと思います。それから、20 歳から 24 歳になると今度は転出が多いというのは、大学を卒業される方ということで、傾向としては、18 歳で入ってきて大学卒業とともに出ていくという傾向が強いんですけれども、その中には、つくばで育った方が東京に行っている方もいます。

それが分かるのが、例えば 11 ページの下の表を見ていただきますと、図の 14 ですが、赤い線がプラマイゼロのところ。それよりも下が転出超過になっているところで、やはり東京圏に転出している方が転出超過になっています。ということは、この中にも 18 歳になった学生が含まれるのかなと推測されます。

ですので、委員から御指摘がありましたように、単純に自然増を確保するだけではなくて、つくばから出ていくという方もやはり抑えなければ、社会増もねらわなければいけない。それによってつくば市の将来的なものは安定するのかなというふうに考えております。

○座長 この 7 ページの図はこれからの議論で大変重要なもので、今の分析で十分なのかどうかちょっと気になるところです。例えば、1996 年のピークは今研究機関の再編と言われましたけど、再編はこの時期じゃないという気もしておりますし、それから、2011 年以降、増加の傾向というのは本当は何なのかということがありまして、もうちょっと分析が必要かなと思いますが、これはまた部会の方でそれぞれの視点からぜひ深めていただければと思います。

○委員 後の部会で必要だと思ったので質問しました。ありがとうございました。

○座長 ほかにありますか。

○委員 ただいま、人口の増減の分析があったかと思うんですけど、その中で、大学のために転入があったり、また大学を卒業したから転出があったりとかいう話が数多くありました。私自身も筑波大生で、入学とともにほかのところから転入してきたという形になるんですけど、私の周りを見る限り、私は筑波大学なので筑波大学の周りのことしかわからないんですけど、数多くの学生は、研究学園地区、筑波大学の周辺に住んでいると思うんです。

つくば市ってかなり広くて、大きく 6 つの地区があると思うんですけど、地区ごとに、転入、転出の流れであったり、人口の分布、どの年代の人が多いのかという分布はかなり違うと思うんです。そういうデータを用意していただくと、地区ごとにどのような対策をしていくべきか、つくば市全体でどのような対策をしていくべきかという、より深い議論ができるかと思うんですが、そ

ういった分析を今後出していただくことはできるでしょうか。

○事務局 期待に応えられるように頑張ります。

○座長 ぜひ次の部会の方でもこの辺を深く議論していただければと思います。

○事務局 各地域の拠点についてですが、前回ハブ・アンド・スポークという考え方を示しましたが、こちらについても研究を行っておりますので、発表できる用意ができ次第、次回にはお示ししたいというふうに考えております。

○委員 人口の定住、人口を増やしていこうということを考えますと、小さいときからつくばに来てもらうというか、つくばを好きになってもらうというか、興味を持ってもらう。これはすごく大事な点。そういう意味では、科学技術博覧会がかなりの功を奏したんじゃないかなと思っています。

そういう中で、小学校に校外学習という日があるんじゃないかと思うんですね。学校以外のところで研修するという、このコースにつくばを入れてもらう、そういう戦略を考えるべきと思っています。商工会としてはかなり人も必要になってくると思いますから、説明その他、バスを動かすこと。いろんな意味で、小さいうちからつくばを案内するというふうなことの中では、関東一円の学校、埼玉も千葉も含めて、エキスプレスの沿線でも、そういう戦略的なことを商工会として提案したいと思っています。

それともう一つ、商工会として、道の駅を提案しないといけないと思っています。これは、高速道路が十文字に入っていますから、インターチェンジだけでも5カ所あるので、そういうことを含めて、高速道路上を走っているものを逃がしちゃいけないと思っています。一般道からも入れて、高速道路からも利用できてという場所の設置が必要だなと思っています。ぜひ、地方創生の中でそういう話を取り上げていただいて、委員の皆さんに認識してもらえればと思います。

商工会としてはいろんな波及を求める時代であります。開発の波は一番小さい商業者がもろに受けていますので、そういう人たちを救っていく意味でも、ぜひ道の駅はこのつくばに取り上げてもらおうというふうに考えていますので、意見としてよろしくお願いします。

○座長 また、後ほどの部会でぜひ御議論いただきたいと思います。
ほかにございますか。

○委員 これも部会かもしれないんですけども、人口にしても産業にしても国際化という観点が必要かなというふうに思っています。茨城県でも今、国際化推進計画、そういうのをやっていて、つくば市は特別に見なければいけないという声も出ています。

筑波大の留学生というのは、学生の割合でいったら多分日本一。それプラス、もともと住んでいる、仕事の関係で来ている方の国際化というのもありますし、あと教育にしても、バカロレアを茨城県で取り組んでいるのは恐らくつくばの私立しかないですね。そういう意味でも、人口、教育、定住の意味でも国際化という視点をもう少し入れた方がいいのかなというふうに感じました。

○座長 これも部会の方にその観点が一つ入っていますので、また御議論いただきたいと思います。

ほかにございますか。

これから部会でそれぞれ分けて御議論いただくことになりますが、人口統計だけがこの創生事業の目標ではないわけですが、一つのベンチマークとして非常にわかりやすいという意味では人口にあらわれてくるわけですので、これから議論するそれぞれ事業、プロジェクトは、例えば 8 ページの社会増、自然増のこのグラフの中でどれほど影響する事業なのかというめり張りをぜひ考えながら御議論いただけるといいのかなと思います。何でもかんでももちろん必要なわけで、全体に関連しているんですが、特に効果的であるかどうか、そういう視点で御議論いただけるといいのではないかなと考えました。

ほかによろしければ、さらには部会の方で御議論いただきたいと思います。人口動向につきましてはこれでよろしいでしょうか。

(4) 市民意識調査・市民懇談会の実施について

○座長 それでは、先ほど議題の進行の方で (3) のかわりにということでしたので、本日お手元に配付した資料について、これも時間の関係がありますのでできるだけ簡潔に御報告をお願いします。

○事務局 (資料 4 の概要を説明)

資料 4 - 1 , 別添資料というグリーンのパワーポイントの資料を本日お配りさせていただきました。本日は、こちらを中心に説明させていただければと思います。ページ番号に関してはスライド番号ということで御説明させていただきますので、御了承いただきたいと思います。

スライド番号 2 番をお願いいたします。先般、第 1 回でも御説明させていただきましたが、市民意識調査に関して 3 つのアンケートを行っております。

まず 1 つが、19 歳から 50 歳の皆様を対象とした市民アンケート、また、高校生、大学生を対象にした進路動向調査を行っておりますが、それぞれ調査期間が、市民アンケートに関しては 13 日が締め切りで、高校生、大学生に関しましても締め切りが終わっております。

めくっていただきまして、スライド番号 3 ページでございます。今回に関しましては、市民アンケートの中から 345 通を対象に速報版を作っております。今後、地区別であったりクロス別の集計を考えているんですが、速報版に関しましては単純集計の発表とさせていただきます。

様式第 1 号

その中で、めくっていただきまして、8 ページのスライドを御覧ください。つくば市に関しまして、つくば市以外に住んだことがあるかという設問でございます。こちらは、他市町村から転入した方が 82.9 % という結果となっております。主にその理由としまして、就職、転職、転勤という方が 38.5 % という結果となっております。

また、9 ページのスライドですが、これからもつくば市に住み続けたいかという質問がありました。それに関しましては、住み続けたい、どちらかといえど住み続けたいと回答された方が 84.8 % と大部分を占める結果となっております。

15 枚目のスライドをお願いします。今度は、子育てに関する質問をしました。既婚者の中で子育てに関して、当初、結婚等をされたときに希望するお子様の数をお伺いしているところがありました。それに関しましては、2 人と回答した人が 50 % を超えております。無回答を除いた方の平均をとりましたところ、2.21 人という希望がありました。

それに比べまして、18 枚目のスライドを御覧ください。実際のお子様の数です。この結果、1 人当たり、平均しますと 1.88 人と若干減っているという状況でございます。

19 ページを開いていただきまして、希望より自分の出産数が少ない理由。まず、一番多かったのは、自分の年齢や健康上の問題というのもあったんですが、2 番目に特筆する点として、子供の教育費に対する不安があるため、という結果が出ております。

今度は女性に関する結婚観ですが、22 ページを御覧ください。こちらは、独身の方を対象に、結婚についてのライフスタイルの質問でした。その中で、今後、結婚してからも続けたいライフスタイルというのは、女性に関しては、結婚して子供を持ち、仕事を続けたいという方が一番多くて、男性が女性に望むライフスタイルに関しても、やはり結婚して子供を持ち、仕事を続けるというライフスタイルを女性に望むという結果が出ております。

続きまして、職業に関する内容でございます。31 ページを御覧ください。こちらは、現在、仕事をされていない方に関して、なぜ仕事をしていないかという理由でございます。やはり一番多かったのが、仕事をしたいが、子育てが忙しいという理由が現在 23 名で、一番多い回答でございました。

また、33 ページ。就労していない方が将来就労した際、希望する勤務地でございます。まず、希望する勤務地に関しては、つくば市内を希望する方が 74.6 % でございました。あわせて、希望する勤務時間なんですが、こちらはフルタイムよりパートタイムを希望するという方が 59.2 % という結果になっております。

速報版でございましたが、このような形で、ポイントとして説明させていただきました。なお、こちらのアンケートの調査に当たっては、質問の設定、アンケートの周知・回収に関して、有識者の皆様からたくさんの御協力をいただいております。この場をかりてお礼申し上げます。ありがとうございました。

様式第 1 号

続きまして、資料 4 - 2 , 4 - 3 の方に移らせていただきます。

こちらは、「まち・ひと・しごと創生に関する市民懇談会」の現在進行形の御報告をさせていただきたいと思います。現在、市民懇談会に関しましては 4 回ほど予定しておりまして、14 日、荃崎交流センターの市民懇談会が終了したところでございます。また、本日夜、筑波交流センターで市民懇談会を予定しておりまして、18、19 日と市役所の会議室で懇談会を予定しております。

懇談会に当たりましては、資料 4 - 3 のシートを参加者の方に作成していただきながら御意見を述べていただくという懇談会のスタイルをとっております。

簡単ではございますが、アンケートの状況、市民意識調査の実施状況及び市民懇談会の開催の実施状況についてお話しさせていただきました。以上です。

○座長 報告でしたが、何か御質問等ございますでしょうか。

市民懇談会というのは、昨日 1 回目があったんですが、どのぐらいの人数が集まりましたか。

○事務局 1 回目は、荃崎地区で 8 名です。8 名の方に参加いただきました。

○座長 これからぜひもっと大勢の方がお見えになるのでしょうか。

○事務局 はい。今晚もございますし、また、土、日ですので、平日よりは若干ふえるかなと思っています。

○座長 よろしくをお願いします。

ほかにはございますか。また、これも貴重なデータで、いろいろこれからの議論のヒントになると思いますので、部会の方でもそれぞれの部会で活用いただければと思います。

○座長 それでは、以上で、本日、全体としての議題は（１）から（４）まで終了としまして、この後、部会の方に分かれていくことになります。この後、部会に分かれて、本日はそのまま散会という形で、次回以降、また部会等、その辺も含めまして事務局の方から説明をお願いします。

○事務局 今、座長からお話がありましたように、これから議事の 5 番目につきましては 2 つの分科会に分かれていただきまして、仕事づくり・子育て部会、別紙 1 の網かけになっている委員の皆さんは、申しわけございませんが、隣の会議室の方に荷物を持って御移動いただきたいと思います。

定住促進・拠点整備部会の皆様はこの部屋に残っていただきますが、若干レイアウトを変えますのでお時間をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

先ほど話しましたように、今回はこのまま部会ごとで散会いたします。次回

様式第 1 号

また部会で集まっていたいて、最後、全体会という形をとらせていただきますので、御了承ください。では、よろしくお願いいたします。

各部会での議事については要旨を記載

■■■部会別の議論 (1),(3) ■■■

<部会に分けた経緯についての説明>

- ・ 前回の有識者会議での意見に基づき分類した
- ・ 各委員の方の専門分野をみて分類した

<資料 5-1, 5-2 の説明>

(1) 産業力の強化でしごとをつくり、安定した雇用機会を創出する

○ 部会長 行政が行う場合は、できるだけ全方位的になる。いろいろな事業をやるという結論になってしまうのは仕方がない。せっかく日本中でまち・ひと・しごと創生事業を行っているので本会議として、これだけは外せないという施策に優先順位をつけ、まとめる方法については考えてはいないのか。

○ 事務局 優先順位について個別施策については考えていない。KPI で全ての事業について評価していくことを考えているので、同等の施策と考えていただきたい。

○ 部会長 了解した。若手職員プロジェクトチーム 3-1, 2 に関してはこれからご説明いただく中でふれていただけるのか。もしコメントがあれば今やってしまった方がいいのか。

○ 事務局 今回の施策については若手職員が自ら手を挙げて提案してくれた施策である。先ほど全体会議の方で、説明しようと思っていたが、今回アンケートが出たということでそちらの方を優先させていただいた。今回は文書を見ていただき第 3 回にて疑問等についてお話しいただきたい。

○ 部会長 3-1 の若手職員プロジェクトチームの農業 6 次化スタートについて、昨日常総市長の小さなプレゼンテーションに参加したら、農業 6 次化を言っていた。中部、東北でも農業 6 次産業化を言っている。日本の場合は素材が全部似ているため同じようなことになる。もしつくば市で農業 6 次化をやるのであればスタートするだけでなく、何か素材を加工して流通経路から販売から消費者まで全部一気通貫したものにしておいて日本中同じものが出てくることになる。これについては第 3 回の会議で議論したい。

○ 委員 数値目標に新規創業者数を 2020 年までの 5 年間に新たに与えるがつくばは、筑波大学発ベンチャー企業は累計 100 社を超え全国第 4 位、他にも産総研ベンチャー等、ベンチャーが生まれる素地は整っているといえる。しかし、今一番問題となっているのは、ある程度育った後のベンチャーのサポート体制

が非常に不足していることである。「つくばウェルネスリサーチ」など、うまく成長できたベンチャーがどんどんつくば市外に転出している。例えば TX 沿線でベンチャー企業を支援する施設などがある。創業を支援するのは良いが、創業後の継続的な支援や連携が求められていると思う。柏の葉キャンパスの KOIL のような施設をつくば市でも必要とされている。こうした話になるとつくば市では持っている土地が無くて茨城県の土地だからとか、いろいろ難しい話になってくるが、重要なことは官民連携、間をつないでくれる人の存在ではないか。ブルーベリーの街つくば、とかパンの街つくば、とかいろいろこれまでも単発で出てくる施策があったが、これを継続し、つないでくれる人が誰なのかがわからない。ぜひ窓口、体制を作っていたきたい。

また、新規就職者数と目標がでている。女性の力を活用していくという必要性をみなさん感じていると思うが、市民アンケートにもあったとおり、多くの女性たちはパートタイムが良いと回答している。これは家庭や子育てが大事だから仕事の優先順位が低いのである。女性たちの本音をとらえた施策を打ち出す必要があると思う。最近、IT を活用して在宅ワークなどで子育てをしながら一日 30 分から 1 時間でも働ける仕組みづくりが注目されている。

例えば、この春、埼玉県では「ウーマノミクス課」というのが新設された。その部署では、在宅ワークに関する講座を企業に委託し、積極的に行っている。横浜市では女性起業家のための研修等の事例がある。ここでもやはり窓口というか、どこが責任を持って継続してやるという体制づくりを盛り込んでいたきたいと思う。

○委員 農業の方なんです、豊里地区で芝を生産した経緯がある。その中で 30 ～ 40 年前に、それから始まった人が芝をやめて他町村から来た白菜やキャベツなどを扱っている。地産地消ということも言っている。そういうことをするには農業生産法人を設立しないとやっていけない。生産能力を高める必要がある。土地がいっぱいあるなか、荒れ放題の土地は何とかしてほしい。貸して、作ってもらった方が良い。

○委員 筑西市に本社がある。本来はつくばの企業ではないがつくばに拠点を構えて 30 年になる。決まったことを実践する立場として参加している。良し悪しもあるがオーナー企業なのでここで出た意見を実践的にすぐに動ける。皆さんのご意見を聞きながら、ここで出た意見を積極的に実践していきたいと思う。

○委員 国際研究都市とあるが、若い世代がここに住んでここで就職したいと思う都市づくりのために国際戦略、国際研究都市とブランディングする必要がある。科学技術の振興というものがそこに入ってくるのだろうと思う。実態は不明だが数多くある国の最高レベルの研究機関がつくば市内にある大学、高校、中学、小学校等教育機関と連携して、子供のうちからつくばで最高レベルの研究に触れる機会をもっともっと機会を増やしていったら、いろいろなかたちでつくば市は魅力ある都市なんだな、つくば市にいれば最高の科学技術に触れることができるんだな、といった機会を増やしていければと思う。

○委員 つくば市は優秀な理系女性人材が眠っているということはよく言われている。研究者同士の結婚がすごく多い。パートナーの就職等を理由につくば市に来たのだが、自分は子育てをしているので仕事をしないといった女性が多

い。そういった方たちの研究所での研究支援員のような実験補助などスキルとか経験を活かした仕事がつくばにはたくさんあると思う。しかし、その間のマッチングする部分が上手くいっていない。例えば自治体の方で人材データベース作り，求人情報，女性のスキルのデータベースなどといった形でサイトの運営をする等が考えられる。小さい事例だが，女性研究者が立ち上げたベンチャー企業で女性研究員を育成し派遣をするなどの事例もある。つくば市として支援できる体制があればいい。

○委員 科学技術で新たな産業をつくることについては国としても大きな課題になっている。筑波研究学園都市には国の研究機関と民間の研究所を含めるとかなりの数の研究機関があるが，そこでの成果がなかなか産業化に結びついていない。そういう意味でベンチャー企業の立ち上げが大切である。世界的にオープンイノベーションが重要と言われている。このことは，企業内の人材・知識・技術だけではこれからの事業発展ができないということで，外部の人材・知識・技術を活用しながら産業を発展させていくという意味である。筑波研究学園都市にあるいろいろな研究機関が持っている技術・人材を産業界としてどう活かすかが大きな注目点になっている。定量的な問題は別として，これらの技術を産業に結びつけるための国の予算を獲得し，茨城県・つくば市の支援を受けて民間企業の人達をたくさん呼んで来て，研究機関に埋もれている技術を企業に結びつけることが必要である。

地域の発展という観点からは，筑波という非常に良い自然環境を活かした住みやすい町づくりが重要である。こんな広い町でありながら，中心部を除くと駐車場所が不足している。車社会としてのまちづくりをもう一度見直していただくと，外部から来た人間にとっても住みやすい町との印象が強くなる。そこがキーポイントになると感じている。車社会に適した，滞在しやすく，活動しやすい町を目指すことが必要である。

○部会長 東京からくると，まちの中心部以外は案内が少ない。車が大変というのは感じる。街灯が少なく，町が暗いイメージもある。

○委員 団地協に加盟している会社は 89 社ある。大半は研究所である。研究所の問題として敷地は広いが人が少ない。研究所は研究設備，機械が多い。研究所が増えても人は増えない。大きな事務所ビル何千人といったような企業を呼ぶ必要がある。環境は非常によくいいところではあるが，人を呼ぶには研究所ではない別のやり方を考える必要がある。

○委員 一昔前は育児休業を取る女性がなかなか少なかったが，ここ 10 年くらいほとんどの女性がとるようになった。残念ながら，職場復帰する人は半数程度。企業側の経営側の意識が職場復帰を受け入れようという意識がない。また女性の方も専業主婦が楽になってしまったり，働こうと思う女性ばかりではない。しかし，社会復帰したい，また働きたいという女性もいるわけで，企業の受け入れ意識，パートタイムや在宅ワークなど，いろいろな形での職場復帰ができるような環境作りが必要。どこかでやるとしたら自治体が一番やりやすいのではないかと思う。

(3) 若い世代の結婚，出産，子育ての希望を叶える

様式第 1 号

○委員 少子化の原因の一つに、子育て世代の男性の労働時間が長いという考えがある。家庭に帰って子づくりをする時間がない。実際に厚生労働省はこう考えていて、今度の労働基準法の改正で 6 時間以上の時間外労働については中小企業は割増賃金 50 %以上にするなどいろんな施策をとっている。企業の中で長時間労働をしている男性を家庭に戻す施策をしていく。これは国だけではなく企業が率先してやっていく。ライフワークバランスの中で目標数値をきちんとだす。組織労働者の方はある程度守られているが、未組織労働者の方は経営者の意識も低いしなかなか難しい。議会の中で PR して働く環境から家庭に戻すのが大切だと思う。

○委員 ワークライフバランスを全体を通して打ち出していく必要がある。パートナーを見つけることに関しても、子作りをするということに関しても、あるいは 1 人目の子育てが始まった後に 2 ～ 3 人目をもうけるかもうけないかというのは、男性の育児時間ときれいに相関するというデータもある。女性の雇用は必要だが、男性の働き方を変える必要もある。今の男性の管理職の働き方を見て女性も管理職になりたいかという希望を持つかということ、持たないという話もある。女性が働きやすい職場づくりも大事だが、男性が家に帰りやすい環境づくりを。今若い人にアンケート調査をすると、男性も高度経済成長を支えた男性と同じような働き方をしたいかということ決してそうではなかったりするところはどう応えていくか。ワークライフバランスというのはまず外せない。つくばに来ればいい仕事・いい生活ができることを PR し、実現していく施策を作っていくと出生率の向上にしても社会増についてもかなわない。本気でやるならそこだと考えている。

○部会長 私が子育てをしたのは 1970 年代の後半から 1980 年代の始めだが、日本の企業ではなくドイツの企業。休暇は労働者の権利ではなく、会社が休暇を取らせないと罰せられるということになっていたので休暇は全員取る。同一業種同一賃金なので日本的なパートとフルタイムというのは単に自分が労働時間を短い契約にただけで基本給は変わらないので、役職者でも子供を持ったので向こう 2 年間はパート契約をするという人たちもいた。1970 年代くらいで、そのころそうすべきと言ったが、日本は構造的に変わらないのでぜひこれから変えるのも必要と考えている。つくば市で何か新しいやり方を。行政に言ってみたがもちろん聞いて貰えなかったが、子育てをした方はわかりだと思うが、サラリーマン二人だと夫の方に扶養家族にすると税金を独身分払う。なおかつ保育所に入れてもとてもじゃないけど二重保育をしなければいけない。保育所も一番高いお金を払ったりする。二重保育をしてその出費は確定申告の時に育児控除みたいなものを作ってくれないかと言ったことがある。フルタイムで働いて税金をもっと払うわけだから、と私が理屈を言ったがとんでもないという感じで。制度的な構造改革も含めて提言していきたい。

○委員 家族になるという以前の問題。昔は、見合いのやり手がいたが今は少ない。つくばでのお見合い、合コンなどがあればいいのでは。

○委員 障害者の絶対数が少ないためスルーされることもある。4 点ある。1.不妊治療について一人目はすぐできたのに二人目はなかなかできないという人が多い。2.個別施策 の下に書いてある介護している家族の負担が大きいため家

族の休息が必要であるという状況もある。この対策として一時預かりサービスの利用者数を増やす、児童発達支援を増やすというのがある。発達支援者を増やしサービス利用を増やすとあるが、今は一杯で入れない。一時預かりサービスの利用者について知的障害児の利用者がどんどん増えている。肢体不自由児の一時預かりサービスが市内にないと聞いているので、どうしても預けなければならないというときは市外まで行っている現状がある。3.障害者と言っても先天的なものと、後発的なものがある。だれがいつ障害者になるかわからない。いつ障害者になっても安心して住めるようにする。つくば市は福祉の市というのは何年も前からうたっているのもその名に恥じないような福祉の市のあり方をしていただきたい。4.小学校で全教室副担任制というのが福井県などである。子供を安心して学校に預けられる環境を整えるのも大事。先日いじめが苦で自殺されたお子さんがいらっしゃったが、もしも、つくば市でこのような事件などが起きたら誰もつくば市に住みたいと思わない。高い教育のレベルを目指すのも結構だが、まずは子供の心のケアや学校に行きたくないような環境の学校が親として一番と思っている。

○部会長 障害児の施設に関して質問があったが、市の方で回答していただきたい。

○事務局 今確認するので少々お待ちいただきたい。

○委員 PTA の連絡協議会、副担任制など非常にいいことをおっしゃっていて、私もそのとおりだと思っている。最近感じていることは小中一貫教育の充実など非常に良いことだと思っている。中央部と周辺部の格差が大きくないか。中央は子供の数も多いし、学校の生徒数も多いので先生のフォローも行き届く。一方で副担任の人数が足りないなどそういった問題もある。つくば全体で考えていきたい。公立小学校から中学校へ上がるということを基本的に想定としているが、最近では私立へ行く人もいる。考え方にもよるが、上手いことフォローできればいい。小学校は公立で中学校は私立へいった場合に教育の学習環境のギャップなどいろんな弊害が生じないかというのも大事。科学だけが教育ではないと思っている。広い意味での教育レベルの向上を期待したい。基本的にはつくば全体の教育レベルが上がれば非常にいい。

○副市長 教育関係について、小中一貫は、単に施設の合体ではない。「つくばスタイル科」を作った。ほかの単なる小中一貫の施設の合体ではなくつくばらしさということになっている。中心部、周辺部の格差ということですが、上下水道がない。そういう面では西のはずれの方に、物理的な面だけではなくどうか解消していきたい。例えば一つの施策として旧筑波町の 7 つくらの学校を小中一貫にしようとしている。小さい学校では、50 人くらいしかいない。通学はバスを想定している。それから、お見合いの場としてつくコン。初回は 2,000 人集まった、そのあとのアフターケアはしていないのでわからないが相当な魅力があると思われる。そのあとも 7 回、毎回 1,000 人規模でやっている。科学技術の新しい話もあった。これについては全く同感。イノベーションを進めていくにあたってベンチャー企業が生まれるが、次のステップになかなかいけない。ほかのところに行ってしまうようなこともある。是非つくばで次のステップに対応できるような施策を。つくば市の考え方としてハイテクパーク構想が

あるが具体化されていない。そういったものを具体化させる。ぜひ、いろいろな話をいただきながら、具体的な施策に展開できるようにしていきたい。駐車場の問題、それから住みやすさについては身障者の皆さんにとっても同じだろう。是非とも次の 50 年を目指したまちづくりをこの中でやっていければと思っている。

○委員 小中一貫教育は生徒指導問題が減っている。一方で小学校から中学校へ上がる際に 30 ～ 50 人一つの中学校で流出する。そうやって流れていったお子さんたちが将来どの程度つくばに戻ってくるかということかなり少ないのではないかと思う。もっともっと PR をしていく必要があるのではないかと思う。それから、科学教育ということが出ていましたが、つくばの小学校から中学校に、そしてつくばの高校にという流れはぜひ確保してもらいたい。例えば高校生が小学校・中学校に対して、先ほどのつくばスタイル化などの授業で支援できる部分などがあるのでは。個別ではお願いできない。教育委員会などで全体をコーディネートしてくれる場があればやりやすい。一方で高校で科学教育を推進するという話がありましたが、例えば、筑波大学だと社会連携といったポジションがあるので、大学院生を派遣するなどができるが、これだけ研究所がたくさんあって、そういうところの方々に高校生がわかりやすくそして新たな発見ができるような刺激を与えてくれる機会がほしいと思っている。しかし、これについても個別に折衝するしかなくてなかなか実現が難しい。何らかの形でコーディネートしてくれる場があったらいい刺激を与えられる。

職場にいる若い人たち。男女雇用のこと、子育て世代のワークライフバランスのことがありましたけれども、若い人たちが出産して、子供が病気になるたびに休みを取って仕事を中断しないといけないのが大変。病気の子どもを預かってもらえる施設があるとすごく働きやすい。つくば市内にたくさんいらっしゃる高齢者の活用ですとか、主婦をやっている人たちの活躍の場でもあるのかなと思う。

○委員 人口の増加、転出を抑える施策につながると思うが、育児子育ての世代への支援が必要ではないのかなと思う。そのなかで男性の育児への参画について。つくば市が企業との信頼を構築していただいて広報活動などを積極的にやっていただきたい。女性が子育てしながら働き続けるのは難しい。環境の構築が大事。どうしても子供が小さい場合などは保育園に預けないといけない、休日保育など今働いている人たちの実態に即した対応をとっていただければ非常に住みやすいつくば市になる。将来を支える子供がいなければ地域の発展はない。子供を預けられるかどうかという不安があると、出産をためらう大きな要因になる。

○委員 農業振興、代替え農業の件で考えていると思うが、環境の面からみて有機農業を中心に考える。ロボットがものすごく高価なものなのでコストがかかる。東南アジア諸国では日本食が見直されているその辺のことを考えることが必要。科学技術振興の件で。一番環境にいいのは電気自動車。バッテリーの問題が画期的に進んでいくと思う。つくばにはいろんな研究機関がある。自動車産業ではなくて家電のような感じで自動車が捉えられ裾野が広がっていく。

○委員 まち・ひと・しごと創生事業で訴えるものなのか。一つの市の計画ブ

ランに入るのではと思う。関連する個別計画はすでにやっているのも入っているのではと感じる。個別で創生事業として国にうったえたいというものがないと。つくば市として何がやりたいかを出さないと国の方の意識としては各市町村同じものになってしまう。再考したほうがよろしいのでは。

若手職員プロジェクトチーム。こちらの意見の方がつくば独自の意見になるのではないかと思います。つくば市は科学技術をメインでやっているが、その下支えの部分があると思う。農業とかもやっている人がいる。その職業の方を忘れていないか。

■■■部会別の議論 (2),(4) ■■■

(2)「東京圏から人を呼ぶとともに、茨城県南の人口流出のダムとなる」

○委員 小学生向け校外学習は、観光よりも学習的な側面としての機能が強い。小学校はコンスタントに進級することもあり、将来にわたり一定の数が確保できる。営業しないとだめ。つくば市の方針として、戦略的につくば市として子供たちの校外学習のコースとして各県に呼びかける。県の教育長にも話をしてある。そのとりまとめは商工会でやる。子供たちにあった案内をする。雇用の場を広げて、コンスタントにどれくらいつくばがのみこめるキャパがあるのか、各研究所はどれくらい人を受け入れてくれるのか、新設整備が必要なのかについても検討が必要。

子どもたちに「未来のあるつくば市」というイメージを強烈にインプットできれば定住の場所としても選んでもらえるのではないか。戦略的に小さい内から呼び込むということを考えている。

○部会長 興味深い話である。市外の人へのアピールは重要である。特に、子どもを対象にすることで、その親に対するPRにもつながる。校外学習は観光という括りにはせず、戦略的につまり子供の親にアピールできるようにつくばの魅力をまず子供たちから出したい。観光ではなく教育あるいは全体を含めたアピールをもっとストーリー性を持った魅力的な物を戦略的にやるべき。の観光の振興という言葉では不十分であると感じる。もっと強化すべき。プロモーションの推進の一部でもある。

現在は、海外の人に対するプロモーションはほとんどしていない。海外の高校生に向けたプロモーションもよい。ようやくJSTが始めた現状があるが、進めていければよい。教育環境がよい、仕事の間もあると感じてもらふことや、つくばスタイルの授業風景をみてもらってもよい。

○委員 校外学習は、説明員に高いレベルが要求される。

○座長 この部会でいうとシティプロモーションという話もあるが、隣の部会では産業強化ということで科学技術の振興や研究機関との連携強化というものもある。いただいたご意見を隣の部会に伝える。

○委員 校外学習のコースに入るし、目で見て分かりやすい。ロボットの最先端はつくばだといわれている中で今日のロボットになるまでの途中経過の博物館をつくる必要がある。

○委員 市外から小中高校生を呼び込むのは非常にいい案。研究所でもかなりやっているの、それをさらに大々的にやっていくとなると人的な負担がかなり出てくる。一般公開施設があるところはそれに対応できるが、ないところでは難しい。ご支援いただかないと飛躍的に拡大するとなると対応できない。今回の仕組みの中で協力することができるといい。丸投げする話ではない。

○委員 EXPO センターでもサイエンスツアーなどイベントをやっている。市外の方たちの所へ行ってこちらにも呼ぼうという話も出ている。そういうところでもつながりが。全体でまとまらなないと、それぞれが皆やっているの、全体でまとめてやるのが大事。

○委員 サイエンスツアーはつぶさなくていいのでは。

○委員 つぶすことはないが、皆それぞれやっていて知らないということがある。

○部会長 個別では大変努力をされているが、全体がない。今回のような機会に全体のストーリーをとって、そこにはぜひつくば市が一肌脱いでいただいて。

○委員 市内のサイエンスツアーはペイしているのか。

○事務局 修学旅行協会も含めて全国的な展開をしようと始めているが、今データがない。

○事務局 それぞれが個別にはやっている。もう一息やれば効果的だということところがなかなか一皮むけないところがある。むしろこの期間にこそ市が市民の意見にとって一肌脱ぐという。市役所だけでやろうと思ってもできない。

○委員 戦略的にやらないとだめ。来てくれる人だけ待っているという状況ではない。

○事務局 誰かにやっていただきたい、協力をお願いしたい、ではだめで、この機会に中心になってここで提案する。いまだどちらかというとプロモーションに関連して文化芸術も関連するかもしれないが、外部の人をどうやって交流してもらって、できるだけそれをくい止める。東京圏に限らずいろんなことがいえますが。

○委員 全体の会でも意見はあったが、数値目標として年間の転入者を増加するとともに転出者の増加を抑制するという話があがっていて、転出者の多くは大学を卒業して東京圏に行くというのでより他の市外より転出する人が多いという話があった。先ほどあったとおり、TX 等が整備されたお陰で、充分東京都市圏に勤務することは可能になった。状況は整っているにも関わらずなぜつくばから転出する人が多いのかという議論をしないと転出者というのは減らないと思う。それも一貫してベッドタウンとしてつくばを売り出すという方向も

あった方がいいと思う。

○事務局 先ほどベッドタウンの条件が十分なのかというご意見があったが、分析データも含めてどうか。

○部会長 つくばの人口統計が出ていたが、茨城県と対比すると違うなというだけで、例えば近在の土浦とかつくばみらいでと比較してはどうか。それは技術的に不可能なのか人口統計では。もし可能なら参考にできるかと。

○委員 転入者がつくば市だけで 1 万 4 人。茨城県が 4 万人の転入。全県の転入者のうち 3 分の 1 はつくばに来ている。これは他の市にはない特徴だと思う。内訳はたぶん筑波大学を始め、研究機関。ある意味で必要に迫られて入ってくる方が多いと思う。つくばが大好きだといって入ってきた人じゃなかったとしても、私も東京からつくばに仕事上の都合で引っ越してきた。そのため、大学や転勤などでつくばに住んだ経験がある人に、つくばのよさに目覚めて、住み続けている方を増やす方がよい。転入者をこれ以上増やすのは簡単なことじゃない。転入は必要性があって来る方が多い。出ていく方は必ずしもそうではない。本当につくばがいいなと思えば年間 1 万数千人いる転出者の何%かは残ってもらえることを考えれば、社会増減は、転入を増やすより転出を減らすことが重要と思う。数値目標を書かれているが「転入者の増加目標・転出者を抑制する」。逆でもいいのではという気がする。説明は飛ばされてしまったが、つくばスタイルセミナーなど、若手職員が作った施策にも興味深いものがある。これだけ転出して去っていく。この人たちを少しでも引き留めるということのためにやっていく。やらなければいけないことはたくさんあるが、あえて優先順位をつける必要があるなら、そちらの方を第一優先で考えた方が効果が出やすいのではないかと。

○委員 テーマ(2)のタイトルに違和感を感じる。コンクリートで造ったダムで強制的に出ていかせないというイメージをうける。そうではなく、自然の抑制という意味ではいい。観点でいくとどうつくば市に住み留まってもらうかということを考えるべき。若者が出ていくということについては、知見を広める意味でも悪いことではないし、最終的に戻ってきて、つくばで暮らしたいと思えるようになって戻ってくる、そういう魅力を作るべきでは。

○委員 人口の動態の中で、流出していくのは大学入学時、就職時に人口移動が多く起きることが分かった。今まで幼少のころから住んでいてずっと住んでいた人が出ていって、一番いいのはつくばが一番いいという思い。それは子供のころからの愛校心であったりふるさとへの思いであったり、子どものころから故郷への思いを醸成できる教育や雰囲気醸し出せるものがあるといい。他地域に出て行ってもやっぱり故郷が一番だと思えるものを作るといい。筑波大学生が来て、4 年間過ごして、ここに住みたいと思わせるような仕掛けが必要。それは何かというと難しいところはある。

例えば、ロボットのまちつくばが標榜されている中、ロボットはつくばが比較的先進的な部分である。「ロボットに特化した地区」を作って情報発信をしていくことも考えられる。市役所の近くには比較的そういう企業もあるようなので、集約して産業化して、さらに医療や福祉にもつながる。部会でいう快適な

生活環境の推進にも一部つながるところがあるので、その辺も含めてやる必要もある。

○委員 今とてもいい話を伺ったと思う。仕事柄番組を作ることが多い。先日、つくばのブルーベリーをとりあげた。11 年前に初めて NHK がとりあげた結果、広く波及した。あれから 10 年経ってもう一度ということだが。全国的には小平市などブルーベリーの名産があり、どこがつくばの特徴かと聞いて教えていただいき一緒に番組を作り上げた。結果としてつくばのブルーベリーが売れ始めているという報告を受けた。いかに「いい噂」を流すかが重要。元になるのはつくばの皆さんの郷土愛。いくら東京に向けて番組を紹介してもつくばに暮らしている方が本当に愛を持っていないと。うまくこの会で整理してまとめ上げていきたい。

つくば市の若い方が作っているようだが、NHK も若い人が見てくれなくて相当苦労している。若い人が見てくれる番組の工夫等、避けて通れない WEB ということでオンデマンドをやっている。その時間帯にみてなくてもつぶやいてもらおうと見てない人も見ようとする動きがある。今後の主な取り組みとして「テレビ雑誌マスコミなどに対し積極的に情報提供し接触を図る」と書いてあるが、発信する側も愛着をもって発信してほしい。今若い人たちはマスコミに対しすぐ接触してこないのフォローする。テレビとウェブをいかに融合させていくのかと、つくばの若い人に考えてもらいたい。

○座長 「つくばの魅力をもって流出のダムとする」という中にはスポーツの振興や文化芸術の振興とあるが、この辺についてはどうか。市民に対するというだけでなく、ともかく来てもらわないとしょうがない。つくばを知ってもらわないと。役割として今で充分なのかどうか。そういうアピールをつくばは出せる。何となく内向きな感じがする。「市内で市民に」というのはもちろん市の行政としては当然だが、もっと市外の人呼び込むという積極的な役割を。

○委員 つくばは様々なことができるし、色々な人がいていいまちだと思う。しかし、イベントなどは色々なことを一度にやりすぎと感じている。例えばつくば市で主催でやっているイベントも、10 月のころにはイベント過多になり全部分散してしまう。交通イベントや観光文化事業も多々ある。全体でまとめたというのはキーワード。効果・盛り上がり分散してしまうため、セパレーションすべき。観光は観光で、学術的な物は学術的なもので、見せ方で全てが決まるのではないか。一緒にたにして人をまとめましょうということをやっていると実は全然分らない。「まつりつくば」に 40 万人の人が来る。22 万人の市に何故こんなに人が来るのか。我々アンケートをとっているが、まつりつくばに来ている方々につくばの方はどのくらいいるのか。ふるさとの祭りなので皆さん好きでやっていると思うが、実はつくばに住んでいる人は少ないと聞いている。自分たちのまちの自分たちの祭りを自分たちで盛り上げるという感覚を植え付けないといけないと感じた。

つくば市の事業もすばらしいものばかりだが、行政主導というより民間を交えて民間に移行しながら協働事業していくことがよい。その方が皆さんの意識が高まり自分たちのまちのアピールを附加させていることにつながる。東京の人たちで元々茨城の人たちが茨城に戻ってこない理由は何かと話をさせていただくことがある。もちろんいいまちだと思っている。明確化してくれればそれ

に対して支援もしていける。

○部会長 交流人口を増やすと同時にダムという議論をしているが、まずアピールしてシティプロモーションをする。市が直接やるのではなく民間がやっている事業を全国的なイベントにすることも可能では。第 3 回の会議でも議論を予定しているが気づきの点があれば。

○委員 運動公園は、ホームグラウンドになるものを呼び込まないとだめでは。県としては鹿島アントラーズを作ったが、つくばも場所を作るだけでなく、併せて様々なものを誘致することが重要。

隣の土浦の花火などで明るいうちはあれだけの機敷はもったいないから、あそこで何か提供することはできないかという投げかけはしている。あれだけの建設費も無料になったり逆に利益が出たり、せっかく人を呼び込む交通の状況からいって、3 時以降は車の乗り入れはできないので早くから人をあの上に乗せている。そういうことから考えると夜待っている間にできるのではないかという提案もしている。まつりつくばでそれができたらいい。今の状況ではできない。その観点からいうと先ほど提案した道の駅も高速道路を走っている人口とつくばの一般道路を走っている人口の両方を呼び込むことが狙い。今は ETC が発達しているからどういうことでもできる。これだけ高速道路が地元に入っている場所はない。道の駅には、免税店の設置も視野に入れて、農産物が豊富な地の利を生かして人を呼び込みたい。

(4)「地域の拠点を強化し、コミュニティづくりを推進する」

○委員 施策がやや総花的でまとまりづらいのではと不安に思った。今後この方向でいくのか。

○事務局 強化していくべき施策や方向性について御意見をいただきたい。事務局の考え方だが、一度こういうメニューがあると委員の皆様は御提示して委員の皆様からの「ここを強化していった方がいいのでは」というご意見に基づいてつくばのまちづくりってこのポイントだと言うまとめ方にしていければと思っている。これを総花的に網羅したものというよりここで何を評価してどういう方向でいったらいいのかという御意見をいただければそこをポイントにすることもできる。

○事務局 中にはこれから検討するというのも入っている。間に合うのかという話もある。それはそれでやっていただくとして、今回はこれを重点化すべきというご意見があったらぜひ。

○委員 重点化という意味でいうと、(ウ)各地域の拠点を整備する(エ)低炭素化に貢献するというこのあたりを横串で一つ推進していくことになると思うが、交通移動体系の部分に、この中に具体的に低炭素交通手段 LRT 等ということまでできている。先日市議会の方で LRT の導入について需要動向のアンケート調査が行われると聞いている。そのあたりの大きな方向性の中で、特に地域の拠点を強化して地域のコミュニティづくりを推進するということで、LRT に限らないがいわゆる公共交通機関の整備を一つ重点項目として検討いただくのがいいのではないかと。

○部会長 南北方向に交通軸のコンパクトシティの課題がある中でこの中で目玉になるのはどれか。例えばハブアンドスポークスの推進については、具体的にハブとは現実的にどこのことを言っているのか。いくつもスポークスはなくてもいいが、一つだけでも作ってみたらいいかと思うがそれは具体的にどこか。

○事務局 具体には考えていないが、先ずは公共交通ということであれば優先的に位置づけることもある。未来構想の中では中心になるのは中心になるのは研究学園地区や沿線開発地区。ただ今までの長い歴史の中で 6 ヶ町村が合併したという経緯があるので、それぞれの旧町村の市街地もそこには点在して存在する。そういったものと今ある研究学園地区を結ぶようなイメージ。

○部会長 それは全体のイメージか。その中で優先順位はあるのか。

○事務局 なかなか難しいところ。今おっしゃったようにまずは公共交通だろうという話がでてきたらそこを重点的にということもできる。

○委員 最近研究学園駅は P & R 駐車場がなくなったため、首都圏や東京に通っている方は今までそこに停めて通えていたのが止められなくなった。あのあたりの駐車場が一杯になってしまったという話。バスに乗ろうとしたら、バスの停留所がものすごく間隔が離れていて乗れない。自転車で行っても大変遠いので危ないという話が良く出ている。もっとつくバスを便利に運行する。最近はいっぱい乗っているのもっと上手にバスの運行をしていただければ駐車場はいらないのでは。

○委員 どこを重点化するかと例えば交通網を考えたところで、まち・ひと・しごと創生の基本だが、これは若者に限ったことなく、老人力の活性化というか、実際人口は老人が増えるという統計が出ているのでそういう切り口が足りていないのかと思う。

資料 5 - 2 の一覧表をみると (2) エと (4) アが市民協働のまちづくりの推進とあるが、例えばいろいろな年齢の人々や障害のあるなしに関わらずという物もが抜けていて、国際化と市民協働となっているのでこのタイトルは同じではない方がいい、目的にあった内容に変えた方がよい。共生という言葉を使うのであれば、高齢の方にも障害のある方にももっと出てきてもらえるような施策を入れることが必要。

○部会長 元々国際化推進指針に書かれているが、下の方がいろんな世代・いろんな条件の人が皆で同じ条件で。先ほどの交通網のことも密接に関係するが。交通網もつくバスも見える。バスセンターにいても。アピールの仕方はいい。最近はどこでも牛久でもやられているし。つくタクは見えにくい。走っていてもどれだかわからない。例えばつくリンというのがあってもいい。自転車は誰が乗っているかわからないが、例えば私が住んでいる武蔵野市では緑色の自転車が走っている。これは市の（実際は JR 東日本系企業が管理）自転車だとわかりやすい。低炭素に貢献している、環境に貢献していると。皆さんは駅に置いて駐輪場代を取られるんだから、一晩だけ借りて帰るのと同じことだから借りている。見えるアピールが弱い。つくばの住みやすいまちづくりをしている

ことをもっと見せる必要がある。富山市は富山市環境自転車という同じ色の同じスタイルの自転車がバス停に置いてある。そこに行って乗り換えるという形。この辺もバラバラになっているのかという感じがある。低炭素というが、自転車を走らせることが低炭素をアピールしているというアピールになると思う。ここは住んでみたいここは老人にとっても特に若い人にとっても住みやすいというまちづくり、インフラあるいはコミュニティ、ソフトについてもっと、特に今回ここに力を入れるべきというご意見は。

○委員 つくバスをもう少し魅力的にした方がいい。私自身も大学周辺に住んでいて交通手段を自転車しか持っていない。そのせいもあり、研究学園、つくば駅周辺しか行動する機会がない。様々な地区でこれから魅力的なことをしていくと思うが、それに際してつくば市内でつくば市内のどこの地区でも気軽に行けるような仕組みをつくバスでつくるのがいい。例えば、福岡の北九州市では、市営バス以外に民営バスが走っている。定期券として通学通勤以外でも北九州市内では1ヵ月 1,000 円で乗り放題という制度がある。中心駅周辺・公共施設が集まった市街地ではどこの区間であっても 100 円で乗れるなどの政策も行われている。市民でなくても北九州市内であれば。

○部会長 つくバスについてもっとアピールした方がプロモーションになるのではというご意見があったが、つくバスについてはこれまでもいろいろ経営上の問題や路線バスとの関係があったが、黒字になっている部分は路線化したりして、定着している。私が住んでいる隣の市に比べればうらやましい。隅々まで行っていて、何故うちの市はこないんだろうかと。

○委員 5月10日11日のつくばフェスティバルの際に防災の事業を実施した。その時に東小学校が全国的にも有数の防災授業をされているとことを皆さんご存じですか。そういった子供たちと防災関係の協力をいただきながら。つくばセンター地区で5月9日10日のフェスティバルの時にもし何かが起きたらどうするかという観点で進めていった。

つくばセンター地区で防災インフラの部分で話していくと、防災スピーカーがない。災害時用の貯水、地下水がどこにあるかわからない。センター地域では実は1箇所しかない。災害ベンダー・公衆電話（緊急電話が発信できるもの）・AEDもあるがどこにあるかわからないといわれている。センター地区活性化協議会の中で議論されている話ですが、防災ハザードマップを確立させた方がいいのではないかと。

東小学校の皆さんはやっているようだが、防災ピクニック、自分の通学路にどれだけのハザードがあるか知っているか。そういう話も出ている。ハード面を整えること以外に啓発的なこと、例えば土曜学級とかの推進も図っていく等ソフト面もやっていくことがある。災害時の場合、避難所の開設も行政からのゴーサインが出ない限り鍵が開かない。例えば水があふれてしまった場合のマンホール。つくば市の場合はすばらしい、鍵がしっかりとかがっていてふたが開かないようなシステムになっている。市民の皆さんがなかなか知らないというところも発見できた。こういったインフラ面整備を含めたソフト面の拡充も含めていただけるとコミュニティの推進も図れるのでは。

つくばの場合は建物がしっかりしすぎて、ラジオが入りづらい。うちの電波が弱いというわけではなく。どこの場所なら入るのか、緊急時にどこで情報を

得られるのか明確化していく。茨城放送も入りづらい。これも盛り込んでいただけようなら災害・防災に強いまちづくりになるのではないか。

○部会長 全体について議論しにくいですが、KPIも含めて他都市と比較してどれくらいの水準なのか。レベルが高いのか低いのか。防災・防犯の話にしても、安全なのか。東京に住んでいると必ずお巡りさんが自転車に乗って走っている。つくばでは自転車では効率的ではないからいいと思うが、何かあったときにどうするのかというときに、人が集まる場所というのは限られているにしても、本当に安全な場所なのか比較が良くわからない。目標とするためにも現状がどのレベルなのか分析できるとよい。

○委員 住みたくなるようなまちにするにはどの点を強化すればよいか、数字的なものがあるか。

いかにいい噂を流すか。「つくばは住みやすい、住みたくなるまちだよ」というキーワードで考えていただく。秋葉原からTXで来たときにつくバスが走っていてとても印象的だった。その一方で防災の話が出たが意識はそれほどないとすればとにかく今住んでいる方がどこが住みやすいのか、ひょっとして足りないところがあるとしたら住みたくなるまちにするにはどの点を強化したらいいかという数字的な物があれば。今住んでいる方が本当に住みやすいまちだと思っているとすればそれはどの点なのか、もっとここを強化すれば住みたくなるという所があれば強化していく。全体でみれば、東京に帰ったときに「つくばはいいまち、住みやすい」と言えると感じた。

○委員 つくばには運動公園をつくるという話があるなか、作らなくてもいいものもある。例えばノバホール。NHKの技術で作ったサントリーホールと引けを取らないホール。一つの例だが、バイオリニストの千住真理子さんのコンサートを9月にやるが、チケットはサントリーホールでは7,000円だが、つくばでは3,500円。そういうことが可能な所。もっとアピールする必要がある。

○部会長 魅力的なことをわかりやすくしたい。ノバホールも交流人口を増やしやすい例。武蔵野市の音楽のチケットは、人気のあるものは、インターネットで10分で満席。ものすごい競争。市内の人だけではなく沿線の人があるが、かつてノバホールでやるとなかなか満席にならなくて、千住さんが来ると満席になる。アピールが足りないのではないかと。もっとTX沿線に。

○委員 TXは高いので料金を下げるべき。何かやるときは交通料金を下げる。黒字になっているので下げさせた方がいい。

○部会長 TXを含めた全体的な戦略になる。

○部会長 秩父市が豊島区と、「秩父に住んで豊島で仕事をしてもらおう、連携して住みやすい町に」という協定を結んだことが新聞に出ていた。西武鉄道とかやっているのかと思うが、TXだって同じじゃないのか。TXはそういう事業じゃないかもしれないが、つくば市と何で協定を結んでやれるかわからないが、アピールするものが必要。確かに文京区あたりで大学の先生が退官した後、ずいぶん研究学園のマンションに来ている。何故かということと本郷まで簡単に通え

様式第 1 号

る。

○委員 筑波山麓は空き家が目立っている。空き地もある。自然環境に恵まれたいいところなのに残念。これからますますそういう傾向が強くなってくる。そこで空き家バンクについて、2 地域居住を推進していくことが重要。特に空き地・余剰地等の活用として、地元の産業と結びつけた P R をしていけるといい。

3 閉会

各部会ごとに閉会